

現行計画における令和元年度までの進捗状況

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
1 医療機能の充実・強化	(1) 救急・災害医療機能の強化	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	<p>●川崎病院では、近隣医療機関の救急受入強化等により救急搬送要請が減少傾向にありましたが、救急医の安定的な確保や救急隊との連携強化などの取組により、計画期間中を通して重症患者の救急搬送をほぼ断ることなく受け入れました。</p> <p>●井田病院でも、川崎病院と同様に救急搬送要請が減少傾向にありましたが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに救急患者数が減少し、目標を大きく下回りました。</p> <p>●多摩病院では、救急自動車搬送受入台数も救急患者数もともに継続的に増加しており、令和元年度の救急自動車搬送受入台数は開院以来最多となりました。</p> <p>●災害拠点病院あるいは災害協力病院として、災害時にその役割を確実に発揮できるよう、有用な設備や高度な機能を活用し、実践的な訓練を実施しました。また、災害発生による物資供給の途絶に備え、必要な食糧、飲料水、医薬品等の備蓄を確保しました。</p> <p>●災害拠点病院である川崎病院及び多摩病院では、DMAT 隊員の養成を強化し、着実に隊の増強を図りました。</p> <p>●災害協力病院である井田病院では、令和元年東日本台風の際、他の災害拠点病院から重症患者を受け入れるなど、高台に立地する水害に強い地の利を生かした災害医療機能を発揮しました。</p>	<p>●今後も高齢化に伴う救急需要の増加が見込まれることから、医療人材の安定的な確保や救急隊との連携強化など救急受入の強化に取り組めます。</p> <p>●川崎病院では、引き続き高い三次救急応需率を維持しながら、川崎病院医療機能再編整備による救急機能の更なる強化を図るとともに、各診療科の高い専門性を活かし、二次救急受入体制の強化を図ります。</p> <p>●井田病院では、準夜帯の救急医の配置など、今後も引き続き川崎病院及び院内各部門の連携を強化し、救急受入体制の充実を図ります。</p> <p>●多摩病院では、今後も24時間365日の救急医療と小児2次輪番救急医療を継続していきます。</p> <p>●今後頻発が予想される台風による豪雨や洪水等の災害リスクに備え、洪水浸水想定地域外に立地する井田病院の災害時医療機能の強化に取り組めます。</p>

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
1 医療機能の充実・強化	(2) がん診療機能の強化・拡充	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ●地域がん診療連携拠点病院（井田病院）あるいは神奈川県がん診療連携指定病院（川崎病院）として、PET-CTやダヴィンチなど高度医療機器の活用による質の高いがん医療体制を確保するとともに、がん相談やがんサロンにより治療選択の支援や悩み・不安の軽減を図ったほか、川崎病院における血液内科診療体制の強化に向けて無菌室の整備に着手しました。 ●井田病院では、医師、臨床心理士、看護師、栄養士、薬剤師など多職種との緊密な連携によるチーム医療・ケアを行い、患者の病状に合わせて入院、外来、在宅のいずれであっても安心して緩和ケアを受けられる体制を維持しました。 ●多摩病院では、新たに腫瘍内科を設置したほか、化学療法やがん手術件数で安定的に目標値を上回るなど、がん医療を着実に推進しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も高齢化に伴いがん医療の需要増加が見込まれることから、引き続きがん診療機能の強化に取り組みます。 ●川崎病院では、無菌室の効率的な運用を図るとともに、医療機能再編整備を推進する中で、化学療法や内視鏡医療の機能強化に取り組みます。
	(3) 高度・専門医療の確保・充実	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎病院では、市内出生数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、分娩件数やNICU・GCUの新規入院患者数が減少し、目標を大きく下回っています。 ●井田病院では、緩和ケアや褥瘡対策等でチーム医療を推進したほか、糖尿病教育入院の増加に取り組み、成人疾患医療の充実を図りました。 ●多摩病院では、血栓溶解療法（t-PA治療）は目標値を上回ったものの、区内に脳神経外科クリニックが開業したことや近隣に画像検査センターが増えたことによる診療環境の変化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、脳神経外科の診療実績が目標を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎病院では、地域周産期母子医療センターとして医療機能再編整備で産科病棟の改修など分娩環境の改善に取り組みます。また、血管内治療や肝胆膵高難度手術など高度・専門医療の充実を図ります。 ●井田病院では、今後も緩和ケア、栄養サポート、褥瘡対策の各チームが連携して医療の質の向上に取り組みます。 ●多摩病院では、脳神経外科医の安定的な確保を図り、神経内視鏡手術の実施や各種専門外来の継続、緊急受入れに努め地域医療に貢献します。

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組 課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた 取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
1 医療機能の 充実・強化	(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	<p>●地域包括ケアシステムの推進の取組として、懇談会や研修会等の開催、連携会議等への参加などを通じて、訪問看護ステーションや介護施設等との連携を推進しました。</p> <p>●川崎病院は平成28年度に地域医療支援病院の名称承認を受け、多摩病院とともに紹介・逆紹介をはじめとした地域医療連携の取組を推進し、2病院とも承認要件を維持しました。</p> <p>●井田病院においても、連携登録医制度の推進や研修会の開催など、地域の医療機関等との連携強化に取り組みましたが、承認要件を満たすことができず、地域医療支援病院の承認申請は見送っている状況です。また、企業の二次検診の減少により検査機器の共同利用件数も減少しています。</p> <p>●井田病院では、令和元年度に厚生労働省による公立・公的医療機関等の2025年に向けた具体的対応方針の再検証要請の対象となりましたが、現状の機能を維持するという自院での再検証結果について、地域医療構想調整会議において合意を得ました。</p> <p>●井田病院では、地域包括ケア病棟において、急性期治療を終了した患者さんが住み慣れた自宅や介護施設等で生活できるよう、退院前後訪問を効果的に行いながら、在宅復帰に向けた治療や支援、リハビリテーションを提供しました。平成30年度及び令和元年度は担当医師の異動等により、24時間連携登録医からの受入患者数は減少し、目標値を下回りましたが、地域の在宅医療を提供する医療機関と連携し、在宅療養患者の緊急時の受入れなどの役割を担う「在宅療養後方支援病院」の届出を行うなど取組を推進しました。</p>	<p>●今後も引き続き医療機関訪問や地域の医療従事者を対象とした研修会等を継続的に実施することにより、地域の医療従事者の顔の見える関係の構築に努めます。</p> <p>●地域医療構想調整会議における議論を踏まえながら、医療機能の分化・連携や医療・介護連携等を進め、在宅療養支援機能の強化など地域包括ケアシステムの構築に向けた取組をさらに推進していきます。</p> <p>●今後も紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医等の支援を推進します。</p> <p>●川崎病院では、循環器や消化器の緊急疾患に係る地域の医療機関からの受入れ要請に24時間365日対応するホットラインを充実するとともに、入退院支援の充実に向けて「入院センター」の機能強化を図ります。</p> <p>●井田病院では、在宅療養後方支援病院としての広報を行い、在宅からの緊急入院患者の受入を更に進めていきます。</p>

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
1 医療機能の充実・強化	(5) その他医療提供体制の強化	Ⅱ	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎病院では、精神保健指定医数を維持し、精神科救急医療の安定的な提供に取り組みましたが、4 縣市協調体制の精神科救急システムの中で受入要請が減少したことにより受入数が減少し、また、身体合併症等の後方移送に時間を要したことなどにより平均在院日数が増加したため、目標を大きく下回っています。 ●新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、市立3病院において、受入病床の整備・拡充を行い、感染患者の受入れ要請等に適切に対応しました。 ●川崎病院及び井田病院では、リハビリテーションの医療ニーズに応えるために必要となる療法士の体制を強化し、入院患者に対するリハビリテーションの早期介入と充実を図ることで、早期回復や円滑な在宅復帰を支援しました。 ●川崎病院では、平成29年度に医療機能再編整備基本計画を策定し、救命救急センター棟の新築及び既存棟の改修に係る設計に着手するとともに、エネルギー棟・給水ポンプ棟の新築については、エネルギーサービス事業者を選定し設計に着手しました。 ●井田病院における斜面防護等整備工事は、開発行為の変更協議のために工事の中断が生じ、予定より1年遅れて（目標を下回って）令和元年度に完了しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎病院の精神科救急医療の強化については、今後も患者の受入れが円滑にできるよう運用を続け、病病連携の促進、県精神科救急医療体制との調整等を進めていきます。 ●今後も神奈川モデルの高度医療機関あるいは重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者の受入れ等に積極的に取り組みます。 ●川崎病院及び井田病院の各病棟に専任の薬剤師を配置し、院内における薬物療法の質の向上を推進します。（多摩病院は配置済み） ●川崎病院では、引き続き再編整備基本計画に基づき、救命救急センター棟等の整備を進めるとともに、精神科救急や感染症医療、リハビリテーション等の医療提供体制の強化を図ります。 	

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
2 医療の質と患者サービスの向上	(1) 人材の確保と育成の推進	Ⅱ	Ⅳ	Ⅰ	<p>●「医療従事者の確保」の取組については、川崎病院及び井田病院では、採用選考の適切な実施や学校訪問、学生実習の受入れなどを行い、質の高い医療・看護を安定的に提供することができましたが、職員満足度調査において、一部職種に係る人員の充足や忙しさに関する項目の評価が低くなったことも影響し、職場に対する総合的な職員満足度が悪化しました。また、多摩病院では、総合医を育成する機関として総合医療センターを開設し、臨床研修医の受入れに取り組みしました。</p> <p>●「職員の専門能力の向上」の取組については、川崎病院及び井田病院では、臨床研修指導医や認定看護師の育成、特定行為研修の受講促進などを行いました。川崎病院では認定看護師が増加したものの、井田病院では減少しました。また、多摩病院では、認定看護師の育成、診療情報管理士の確保など職員の専門能力の向上に取り組みしました。</p> <p>●「働きやすい職場づくり」の取組については、川崎病院及び井田病院では、医師事務作業補助者の拡充によるタスクシフトの推進や、新型コロナウイルス感染症への対応に伴い特殊勤務手当適用範囲の拡充などを行いました。成果指標「仕事と私生活のバランスがとれていると思う職員の割合」が悪化しました。また、多摩病院では、医師事務作業補助者の増員による医師・看護師の負担軽減を積極的に推進しました。</p>	<p>●質の高い医療・看護の安定的な提供や医療機能の強化、働き方改革を踏まえた適正な人員配置等に向け、引き続き医療従事者の確保の取組を推進します。また、川崎病院では、医療機能再編整備の進捗に合わせて人員体制の強化に取り組みます。</p> <p>●提供する医療・看護の質の向上を図るため、臨床研修指導医・認定看護師等の育成や専門資格の受講促進など、引き続き職員の専門能力の向上の取組を推進します。</p> <p>●長時間勤務の是正やタスクシフティング等による働き方改革の推進、更には年次休暇や育児支援制度の取得促進等によるワーク・ライフ・バランスの実現に向け、引き続き働きやすい職場づくりの取組を推進します。</p>

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
2 医療の質と患者サービスの向上	(2) 医療安全の確保・向上	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	●医療安全管理者や感染制御チームが中心となり、定期的な院内巡視等による現状把握や業務改善、職員研修会を通じた知識の普及や意識啓発を図る取組などにより、医療安全対策加算1及び感染防止対策加算1に係る診療報酬施設基準を維持し、安全で安心な医療を提供しました。	●引き続き医療事故の原因究明や再発防止、院内感染対策の徹底等により質の高い安全で安心な医療を提供します。
	(3) 患者に優しい病院づくり	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	●川崎病院では、食材や献立の見直し、盛り付けや食器など見た目の工夫、行事や季節に合わせた献立作り、新しい調理器の導入などの改善に努めた結果、入院の満足度は向上しましたが、外来では、待ち時間の改善などが課題となっています。 ●川崎病院及び井田病院においてかわさきWi-Fiの導入・拡充を行ったほか、川崎病院及び多摩病院において外来の待ち状況が確認でき、診察の順番が近づくと通知が届くスマートフォンアプリの導入など、待ち時間の有効活用につながる取組を進め外来患者満足度の向上を図りました。	●入院患者満足度については、比較的高い状況を維持できるよう引き続き食事の改善や快適性の向上など入院環境の改善に努めます。 ●外来患者満足度については、待ち時間の改善などが課題となっていることから、待ち時間そのものを短縮する取組に加え、待ち時間を有効に過ごすための取組も併せて強化していきます。

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
3 強い経営体質への転換	(1) 収入確保に向けた取組の推進	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな診療報酬加算の取得や平均在院日数の短縮、高額薬剤の増加等により医業収益や診療単価は向上し、目標値を上回るか概ね達成しました。 ●「病床利用率」については、救急患者の積極的な受入や、地域医療連携の強化等の取組を推進してきたものの、川崎病院では一部診療科における医師数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響で入院患者数が減少したことなどから、目標値を達成できませんでした。 ●井田病院の病床利用率は計画前と比べて大幅に上昇しましたが、結核病棟の稼働率低下などにより、目標値は達成できませんでした。 ●多摩病院の病床利用率は、救急自動車搬送受入台数の増加などにより、安定的に上昇しており、計画期間中を通して目標値を概ね達成しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●医師をはじめとする医療従事者の安定的な確保や新たな診療報酬加算の取得など、収入確保に向けた取組を進めます。
	(2) 経費節減に向けた取組の推進	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎病院及び井田病院では、材料等の適正な在庫管理や委託仕様の見直し、値引き交渉アドバイザーの活用等による納入価の引下げ、高額医療機器の購入と保守の合併入札による複数年のトータルコストでの競争の導入など、新たな経費節減策に取り組み、成果を上げることができました。 ●多摩病院では、聖マリアンナグループによるスケールメリットを活かしたコスト削減等のため、SPD業務（医療材料物品供給管理）について、仕様の見直しを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き効率的な病院運営に向けて材料費の抑制や委託料の縮減など、更なる経費節減の取組を進めます。

※【進捗状況指標の基準】Ⅰ：順調に進捗、Ⅱ：一定の進捗がある、Ⅲ：進捗が遅れている、Ⅳ：進捗が大幅に遅れている

取組課題	取組項目	進捗状況			取組状況・成果の分析	次期計画に向けた取組の方向性
		川崎	井田	多摩		
	(3) 経営管理体制の強化	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	<p>●川崎病院及び井田病院では、局が開催する経営会議はもとより、各病院内の幹部会議等においても頻繁に経営状況を周知し、経営意識の醸成を図りましたが、経営に参画したいと思う職員の割合が横這い又は微増となっており、目標から大きく乖離した状態で推移しています。</p> <p>●多摩病院では、幹部会議や管理運営会議を通じて収支状況等を各職員へ周知し、経営戦略会議も毎月開催することにより意識向上を図りました。</p>	<p>●経営目標の達成に向けて更なる経営意識の醸成につながる取組として、医療の質改善や新規加算取得に向けた体制の構築、職員の意識啓発の仕組みづくりなどを推進していきます。</p>